



# 特許制度活用便利帳

## 第6回

### 「審査請求時の検討事項③」

弁理士 石田 悟

**<Q>** その他、特許出願の権利化作業を進める上で便利な制度があれば教えて下さい。

**<A>** ケースに応じていろいろな制度が利用可能です。お気軽にご相談下さい。

**ま** ずは、特許庁のホームページで「特許行政サービスメニュー」を見てみましょう。このメニューは、特許庁がそのサービスをわかりやすく紹介するために作成したもので、制度情報検索などになかなか便利なメニューです。

このサービスメニューで「審査」の項目をみると、前回紹介した早期審査制度以外では、関連出願連携審査制度、面接審査、巡回審査、テレビ面接審査、及び特許審査状況確認が挙げられています。

**関** 連出願連携審査制度は、技術的に関連する一連の出願を体系的に審査する制度で、早期審査制度とともに、出願人の事業戦略に応じた多様な保護のための制度として位置付けられています。

本制度を利用するには、毎年9月に行われる関連出願連携審査参加出願人の募集に応募し、特許庁から送付される案件リストに審査をまとめるための情報を付して回答します。これに対して、特許庁では、出願人が選定した関連出願群のまとめ情報等を参考にしてまとめ審査、起案、

発送、あるいは必要があれば一括技術説明、面接等を行います。

具体的には、例えば、同一の製品に関する出願群、あるいは同一の発明者による出願群などについて、出願群単位で審査を進めることが考えられます。

このような制度を利用することにより、一括して審査を行うことによる審査の効率化、統一した判断基準で審査が進められることによる権利の安定化、適切なパテント・ポートフォリオ戦略の構築、などの効果が期待できます。また、早期審査制度と組み合わせた利用も可能です。

**面** 接審査は、審査官が出願人及びその代理人と直接会って発明の技術説明、先行技術との対比説明、補正案の検討などを行うもので、拒絶理由通知への応答時などにしばしば利用されています。また、面接よりも手軽な手法として、電話・ファクシミリ等によって審査官とコミュニケーションをとることも有効です。

巡回審査、テレビ面接審査は、面接審査の十分な活用を図るための施策です。まず、巡回審査は、各地域の中小・ベンチャー企業、大学、TLOなどによる利用を主に想定したもので、各地の面接会場に審査官が出張して面接審査を行う制度です。

また、テレビ面接審査は、審査官と出願人との間の意思疎通を容易化するためのもので、テレビ会議システムが設置された各地の特許室を利

用して面接審査を行う制度です。また、出願人自身がテレビ会議システムを所有している場合には、直接にテレビ面接を行うことも可能です。

また、特許審査状況確認は、審査状況伺書の提出によって、出願人が審査の進行状況を確認することができる制度です。

**以** 上説明した各制度を利用して特許出願の審査を適切かつ効率良く進めるためには、出願人及び代理人の側において十分な検討、対応を行うことが必要です。

第一には、各案件において上記各制度の利用を適切に検討、判断すること、第二には、各制度を利用する際に、出願人と代理人との間でその準備を充分に行うことが重要です。

例えば、面接審査を利用する場合には、技術説明のための資料は充分か、補正が必要と判断された場合の補正案は用意したか、審査段階で許可/不可の補正範囲はどこまでか、などについて、事前に十分な検討及び意思統一を行っておくことが大切です。

特許庁が出願審査について提供している様々なサービス。出願人側でも、代理人と相談しつつ十分に活用していきましょう。

以上